



『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

WEEKLY NEWS

---

◆水処理関連：住友電気工業が中国における水処理膜モジュール生産能力を増強（10月30日）

住友電気工業は、水処理膜モジュールの生産能力増強に向け、中国広東省にある同社グループ子会社中山住電新材料有限公司（ZSH）に設備投資を実施すると発表した。

中国では、経済発展に伴い水質汚染が深刻な問題となっており、水汚染防止行動計画（水十条）が掲げられている。

住友電工は、ZSHにおいて「汚れにくい」「長寿命」といった特徴を持つPTFE製水処理膜（ポアフロン）モジュールを製造し、中国市場等へ販売している。今回の設備投資は、近年の環境規制の実効強化を背景に、膜モジュールの生産能力を従来の1.5倍以上にあたる500,000m<sup>2</sup>/年まで高めることを目的としており、2018年3月の稼働を目指すとしている。

◆自動車内装材料：三洋化成工業の自動車内装用ウレタン系表皮材料が米国の電気自動車で初採用（10月27日）

三洋化成工業は、自動車内装用ウレタン系表皮材料（ウレタンビーズ）が米国・カリフォルニア州に本社を置く自動車メーカーの電気自動車（EV）に採用されたと発表した。

三洋化成工業は、2000年に日本で初めてスラッシュ成形用ウレタン系表皮材料（ウレタンビーズ）『メルテックス』を開発し、ダッシュボードなどの自動車内装表皮として高級車を中心に使用されてきた。『メルテックス』シリーズは、ウレタン素材のため柔らかく触感の良い表皮が得られる。また、革のようなステッチ加工やステッチラインの形状を金型で再現する疑似ステッチ装飾が可能であり、エアバッグの切り込みをなくして開口部が見えないようにするインビジブル化などにも対応できるなど、高い意匠性が得られることが特長である。

新グレードの特長である、内装表皮の薄膜化による自動車の軽量化や成形時の金型低温化による省エネなどが評価され、今回の採用に結びついた。同社は、これを機に、国内外におけるEV含めた多くの自動車への採用拡大を目指す

ずとしている。

◆セルロース：王子ホールディングスが耐水性に優れたセルロースナノファイバーシートを開発（10月26日）

王子ホールディングスは、世界で唯一、細さ3~4ナノメートルの超微細CNFを用いたCNF連続透明シートを開発、製造し、商品名「アウロ・ヴェール」「アウロ・ヴェール3D」としてサンプルワークを進めているが、今回、従来品の弱点をカバーする耐水性に優れたCNF連続透明シート「アウロ・ヴェールWP」を開発したと発表した。

CNFは植物繊維であるため、従来のCNFシートは耐水性に劣るという欠点があったが、「アウロ・ヴェールWP」は、CNF透明シートの特徴である高い透明性、フレキシブル性、低熱膨張性、優れた成形加工性、ガスバリア性に加え、耐水性を有する。これにより、従来のCNFシートでは困難であった高湿環境下での使用が可能となり、新たな分野・用途への展開が期待される。

王子ホールディングスでは、2017年度後半にCNF透明シートの実証設備導入を予定しており、今後はこれら開発品のサンプル配布を開始することで、さらに幅広い分野・用途での事業化を加速するとしている。

◆樹脂：日本ゼオンが高耐熱光学レンズ用樹脂を上市（10月26日）

日本ゼオンは、高耐熱性シクロオレフィンポリマーZEONEX T62Rを上市したことを発表した。ZEONEX T62Rは、耐熱性が要求される車載センシングカメラのレンズ用に開発された樹脂で、現在はガラスが使用されている同用途での今後の拡がりが期待されている。

従来のシクロオレフィンポリマー（以下、COP）は、ガラス転移温度（以下、Tg）を高くすることで優れた耐熱変形性を有する一方で、高温環境下では黄変し易いという性質があった。今回、同社が開発したZEONEX T62Rは、154℃の高いTgを有し耐熱変形性に優れ、かつ高温環境下での黄変を抑えることに成功した。

車載カメラは、視界補助（ビューイング）カメラと画像認識（センシング）カメラに分けられ、双方ともに本格的な普及が進んでいるが、特にADASの普及に伴いセンシングカメラは年率10%以上の伸びが期待される成長分野である。

同社では、今後の実用化に向けて開発の進む自動運転システムへの展開も視野に、COPならではの用途拡大を図っていくとしている。

◆繊維：東レが高い防虫機能と安全性を両立した防虫テキスタイルを開発（10月26日）

東レは、独自の微細加工技術により高い防虫機能と安全性を両立した防虫テキスタイル「WithRelief(ウィズリリーフ)」を開発したことを発表した。

今回、同社が開発した WithRelief は、同社が保有するナノスケール加工技術を応用した微細加工技術により、防虫機能を持つ多層構造の被膜をテキスタイル表面に立体的に形成させることに成功しており、また被膜を強固にテキスタイルと一体化させているため、被膜の脱落を抑制し、機能の持続性を備えている。

従来の防虫素材に比べ、肌への刺激を考慮した防虫加工を施しているため、子供が日常的に直接触れるシーンなどでも使用することが出来るとしている。

本素材を大人から子供まで幅広い世代の方に向けて、農業や林業、建設業、配送業といったアウトドアワークウェアから、登山やランニング向けなどのアウトドア・スポーツウェア、学生服や子供服、カーテンや寝具に至るまで多様な用途へ、グローバルに展開していく。

同社では、WithRelief を 2018 年 4 月から販売を開始し、2018 年度に 5 万 m、3 年後の 2020 年には 30 万 m の売上を目指すとしている。

◆導光板:住友化学が同一面でカラフルな表現が可能なシースルー導光板を開発(10月24日)

住友化学は、世界で初めて、同一面で多色表現が可能なアクリル樹脂製シースルー導光板を開発したと発表した。

今回開発したシースルー導光板は、通常は透明に見えるが、端面(エッジ)から光を照射すると、多色の模様が浮かび上がる特殊な導光板で、現在 4 色(白、赤、青、黄)の表現に対応している。シルクスクリーン印刷で加工でき、低コストで少量多品種生産が可能な点が特長である。

11 月にはカラーバリエーションを 12 色へと大幅に増やす予定で、用途提案を積極的に進め、建材、店舗の装飾やディスプレイ、看板など幅広い用途での採用を目指すとしている。

◆テープ:三井化学が台湾に半導体製造用テープの新工場を設立(10月23日)

三井化学は、傘下の三井化学東セロが台湾の高雄市に、半導体製造工程で使われる保護テープ「イクロステープ」の製造・販売を手掛ける会社を設立することを発表した。

イクロステープは半導体製造工程に用いられる保護テープで、特にシリコンウエハーの裏面研削工程用では世界トップシェアである。半導体市場は携帯端末の伸長で需要を拡大しており、今後もデータセンター向け需要や IoT 関連需要が伸びるとみて、新会社の設立を決めた。

新会社の資本金は550百万台湾ドル(約20億円)、三井化学東セロの100%出資で11月に設立し、営業運転の開始は2019年9月を予定している。年間生産能力は380万m<sup>3</sup>としている。

◆価格改定

- ・出光興産がアクリル酸及びアクリル酸エステルを10月3日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、15円/kg以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

